

0・2歳児親子遊び事業「とんぐり会」「ジバー会」

取材日：平成23年（2011年）2月3日

【活動目的】

地域で乳児を育てている若い母親のために、会員相互の親睦をはかりながら、親子のつながりを大切にした親子遊びの場を提供し、0歳児親子の遊び「とんぐり会」と、2歳児親子遊び「ジバー会」を運営しています。

【支援金事業】（支援対象経費総額 736,606 円 支援金確定額 368,303 円 支援率 50%）

0歳児親子遊び「とんぐり会」は、船橋アリーナ和室で、各クラス毎週1時間、15組の親子と2名の保育士が、親子のふれあいを大切にした、おもちゃ遊び、わらべうた、ミニ文学、親子体操の遊びをしています。

2歳児親子遊び「ジバー会」は、多目的室で、各クラス、毎週1時間15分、20組の親子と2名の保育士が、親子のふれあいを大切にした、0歳児と同じ遊びの他に遊具遊びをしています。

次年度に、幼稚園や保育園に行く子ども達が、少しずつ親から離れられるように、2歳児の1クラスが、後期から通常の遊び時間中に、20分間、子ども達だけで親から離れて遊びます。そして自分の名前をグループ名で呼ばれて言葉の概念を広げます。

【事業を行う理由】

船橋市には、不特定親子のグループ遊びの場所がたくさんあります。しかし、「かしの木会」は、週1回ずつ遊び重ねて、特定親子のグループ遊びでしかできない、30分のおもちゃ遊びを大切にしています。この遊びをする事で、0歳児は根気と遊びの共感が育ち、2歳児は自発性と共感が育ちます。



2歳児 おもちゃ遊び

【期待される効果】

0歳児「とんぐり会」で使う、手作りのわらべうたの教材がすばらしくて、子ども達にそれらを見せると、一瞬にして一人一人が教材を注視します。このような脳の働きは、これから以後の物を覚えるのに大いに役立ちます。2歳児「ジバー会」では、0歳から積み重ねがある子の成長が特に著しく、興味を持ったことには、まだ短時間ではありますが、とことん集中できます。

【活動の現場から】

「ジューパー会」の始まりの時間が近づくと、子ども達がお母さんと一緒に元気にやって来ます。どの子もみんな嬉しそうで、期待に満ちた顔です。自分の好きなシールを選んでカードに貼った後は、それぞれ興味のあるおもちゃのもとに走ります。しばらく自由に遊んだ後は、グループに分かれて座り、わらべうた・手遊び・しぐさ遊びの時間です。会の名前の由来にもなっている、いないいないばあという意味の、「ジューパー」のかけ声のハンカチ遊びは、特に楽しそうでした。手作りのお人形やパネルを使ったお話の時間は、どの子もみな真剣に聞いています。

このあたりから、来年度の入園に向けて、お母さんと離れられる子は少しずつ離れます。全身を使うリズム体操が終わると、一人一人先生と抱擁のご挨拶をして会は終了になりました。

子ども達は、お友達とも仲良く遊べる、進んでお片付けができるなど、とてもしっかりしていて落ち着いているのが印象的でした。公民館などの不特定親子の遊びの場所とは別に、こうした積み重ねを大切にする遊びの場所があり、保護者がそれぞれの事情に応じて選ぶ事ができればと思いました。支援金を受けて、一回の会費が600円から300円に下がり、会員がとても増えたそうです。特に船橋市内の子どもが多い地域などにも広まれば、もっとたくさんの親子が喜ぶのではないかと感じました。



「しぐさ遊び」親子のスキンシップになり、
子供達の大好きな遊びです



「お話」子供達は手作りの物に興味を示し、
吸い込まれるように聞いています

関わり先（連絡担当者）

0・2歳児親子遊び「かしの木会」

代表 中村 三和子

TEL：047-466-3375